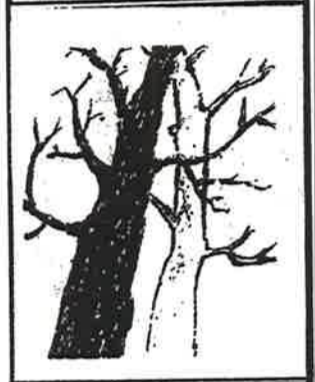


発行所 養護老人ホーム
延命園
長崎市寺町3-1
(095)822-8563
発行責任者 園長 堤 祐敬
題 字 池田可宵先生



口の端

言の葉

情けの齒

延命園園長 堤祐敬



満開の桜をスケッチ ～延命寺境内にて～

その医師のことは、以前に新聞記事で目にしてきたように記憶している。

現代医学の目を見張る進歩の中で、脳神経外科の領域は特筆されるものであり病巣の確認と摘出。そして幾筋もめぐらされた、しかもどれもが重要な機能を受けもつ脳神経の後処置は、或る種、命懸けの職人芸である。

彼はその最高峰に位置される名医である。
ある日のテレビ番組はドキュメンタリータッチで彼の姿を追いかけていた。
日本国内は言うに及ばず海外各国からも極めて難度が高い手術について様々な紹介や依頼が舞い込む。病棟のベッド。

患者及び家族達は彼の朗らかな表情と、数々の実績に裏打ちされた確固たる信念を見せられ、只々する想いの瞳を向けている。
映像はスタジオ内での対

談に移る。

司会者が問う。
「今、現代のゴッドハンド（神の手）と呼ばれているあなたにとって、常に心がけられている事は何ですか？」
少し間があつて、彼は答える。

「若い時に難オペ（手術）をクリアして、ちよつとのおぼせている時がありました。確かに対象物はよくはつきりと見えるし手もとも狂いが無い。今の言葉で言えば「いけいけ」のような・・・。
そんな時、一人の青年が患者として私の前に現れました。

青年とは入院直後からコミユニケーションをとって状態の変化をつぶさに観察しながら手術当日を迎えました。
朝、青年は笑顔で私の手を握って「先生、僕の未来はありますよね、信じています」と呟きました。

このオペの成功率は通常四十%。
けれど私は普通に軽く軽くふあつと軽くに「大丈夫任せてください」と言いま

した。

本当にそう思っていました。
数時間後、結果は失敗。すぐに息を引き取りました。
青年の両親の姿―話すまでもありません・・・
スタジオの彼は泣いていた。

「人間はどうしてもひとつの成功を得るとそれを鼻にかけてしまう。無意識のうちに」
「私はこの一件以来、その青年の写真をずっと持っています。二度と、二度と中途半端な気持ちで職場にのぞまない。」

「静かに大きく深呼吸をして、その部屋に入っていく」
「これが私の天職ですか」
彼は涙のあとを残したままきつぱりと言葉を發した。

「これが私の天職ですか」
~~~~~  
衝撃は、その後、詩という形で私の中に衝動をもたらした。  
以下がそれである。

口の端 言の葉 情の齒

池の水面に秋の雲映されて  
青い器を表している  
私は歩を進めて その周りの石に  
昨日と今日の移り変わりとながりを感じている  
この口の端に 思いの粒を集めている

風の遊び時―仲間達が四方からやってきて 紅い黄色い  
葉々を舞わせている  
私は立ち止まり その真ん中の黙気を浴びて今日と明日の彩り具合とバランスを模索している  
この言の葉に 望みの森を託している

昔々にはじまった この地上で  
今の今を刻む人々がいて  
いろんなことや ものを口に入れては  
情けの齒で かみくだいていく  
栄えの扇をひととき広げて  
このいのちの  
与えられた輝きを 発し終えるために





# 新事業誕生

平成18年4月の介護保険法改正により、延命園も介護保険制度上のヘルパーステーションやデイサービスを利用できるようになりました。

その波に合わせ、延命園も昨年の10月から、特定施設入居者生活介護の指定を受け、ヘルパーステーションを立ち上げ、利用者への介護サービスは、ヘルパーさんが提供する仕組みへと変更しました。

利用者の皆さん方の理解と協力を得ながらこれまでの延命園の長い歴史を大切にしつつ、少しずつ新しい息吹を吹き込んでいっているところです。

時代は変わっても心は常に利用者の方々、地域の方々と共にありたいと願っています。



「抹茶のおいしかよ～」～お花見会にて～



～フランス料理会食～



～丸山町庭先回り～

いったりきたり

平成18年10月1日より指定を受けた介護保険法に規定する事業  
 名称：養護老人ホーム延命園  
 （特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護）  
 名称：延命園ヘルパーステーションとこしえ（訪問介護・介護予防訪問介護）  
 その他：ホームページ開設（H18年10月）  
<http://www.enmeien.jp>

- ～10月の予定をご紹介します～
- 二日 散髪ボランティア(金子様他)
  - 三・二七日 傾聴ボランティア(松本様)
  - 六日 虹のキャラバン訪問
  - 八日 おくんち見学(お旅所)
  - 九日 踊り町(丸山町)庭先回り
  - おくんち見学(お上り)
  - 十二・四日 マッサージボランティア(深堀様)
  - 一三日 全館消毒(2回目)
  - 一四日 少年サポートセンター(ボランティア・交流)
  - 一六日 九州調理師学校調理実習
  - 有料散髪(中島美容店様)
  - 一六・二三日 手工芸指導(上田先生)
  - 一七日 衣類補正ボランティア(くるみ会様)
  - 二三日 司厨士協会よりフランス料理提供
  - 有料散髪(浜本美容店様)
  - 三十日 フルート演奏会(甲斐様)
  - 三十一日 玉木高等学校衛生看護専攻課様一日体験学習
  - 毎入浴日 洗濯ボランティア(古門様)



## おじいちゃんボランティア

### \*わたしの宝物\*

- ☆M・Yさん(八十八歳)  
健康が一番大事。食べ物は何でも食べられること。何でもいただきます。
- ☆T・Yさん(七十八歳)  
特にないですね。つまづかないように階段の上り下りには気をつけてます。
- ☆H・Nさん(八十五歳)  
友だちね。あなたたち(職員に対して)にもみんな同じ。仲良うしとかんばここで生活しきらんもんね。
- ☆Y・Mさん(九十五歳)  
やっぱり友だち。友人関係ね。お部屋の人はもちろんだけど、周りの人たちもね。一人だとさみしい。
- ☆T・Tさん(八十五歳)  
物は何も思いつかん。体しか思いつかんね。子どもの時から体の弱くて寝込んでばっかりおったから。
- ☆Y・Mさん(九十五歳)  
大阪に居た時と同じように話すとこっち(九州)ではびっくりされるので、少し控えめなおしやべりにしてるのよ。(笑)

ここ(延命園)に来てから元気になった。今が一番の幸せ。天下泰平よ。



文化祭より  
 花の会メンバーの作品